

保護者との連携について

保護者の思いや考えを受け止めて、保護者とともに子どもを支える

不登校の児童生徒を支援する際には、学校の支援の方針について保護者と共通理解を図りながら、同じ目標に向かって支援をすることが大切です。教職員だからこそできる学校の支援があるのと同様に、保護者だからこそできる家庭の支援があります。不登校の状態が続いている子どもを支える毎日の中で、様々な悩みや不安を抱えている保護者の思いや考えをしっかりと受け止めながら、子どもを支えるためにできることを保護者とともに考えるようにしましょう。

保護者との連携のポイント



相手への要望を言い合うだけでは、保護者との連携は成り立ちません。

連携の中心に「子ども」を据える



お互いの役割を尊重しながら、それぞれの立場で、子どものために何ができるかを話し合う。

保護者との連携の流れ



担任一人で考えるのではなく、教育相談部会等で支援の方針を話し合い、複数で検討しましょう。

① 実践できそうなことを考える

- 保護者の思いや考えを聞くにあたっては、^{※1}子どもの実態をきちんと把握した上で、「学校としてできそうなこと」や、「保護者ができそうなこと」について、事前に校内で検討しておくことが大切です。

② 保護者の思いや考えを聞く

- 保護者の思いや考えをしっかりと受け止めることが、様々な悩みや不安を抱えている保護者を支えることにつながり、保護者と信頼関係を築く第一歩となります。
- 学校と家庭では、子どもは少しずつ違った面を見せているので、教職員と保護者がそれぞれのもつ情報を共有することで、子どもの理解を深めるとともに、保護者の意見も取り入れながら、子どもの状態に合った支援を検討しましょう。



☆ 支援の振り返りを行う

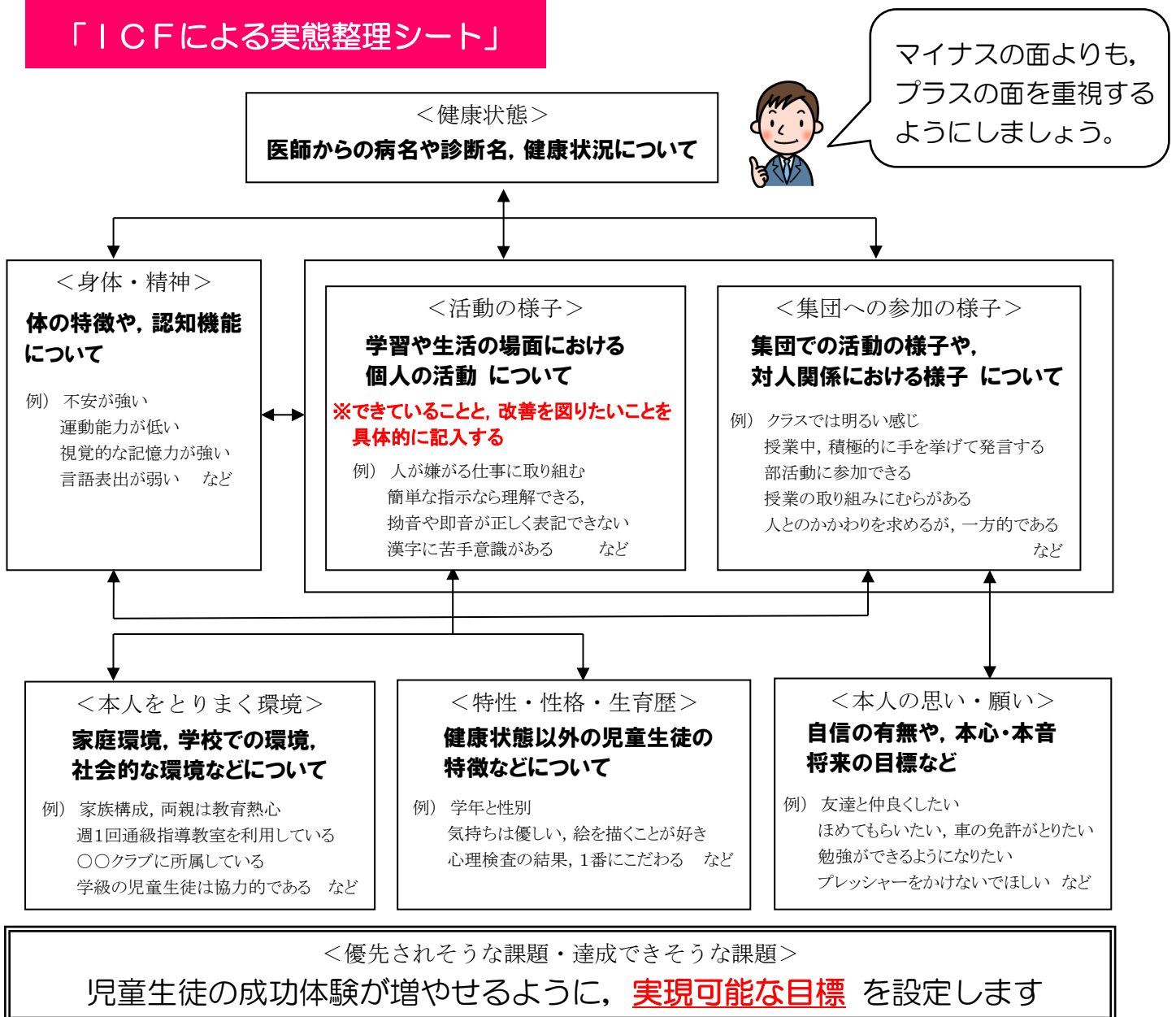
- これまでに学校や家庭で行ってきた支援の内容や、子どもの様子について保護者と共有し、現在の子ども状態に合った支援を再検討しましょう。

※1 参考：ICFによる実態整理シート（裏面）

正解は一つではない。だからこそ、要因を探ることが重要

「学校としてできそうなこと」や、「保護者ができそうなこと」を考える際には、子どもの実態（活動状況、発達状況、障がい等）をきちんと把握し、子どもを取り巻く環境や、本人の生育歴、性格などの個人的な要因について考えることが必要です。児童生徒の実態を記入しながら、学習や生活上の課題を整理していく「^{※1}ICFによる実態整理シート」等により、視覚化することで、子どもにとってのニーズを把握し、共有することができますので、各校の教育相談部会等でご活用ください。

「ICFによる実態整理シート」



マイナスの面よりも、プラスの面を重視するようにしましょう。

目標設定のポイント

- ① 実態を踏まえ「**実現可能なもの**」
- ② 「スモールステップ」で子どもに、ちょうどいい目標
- ③ 達成の可否が評価できる具体的な目標

支援の手立てのポイント

- ① 子どもの自信につながる支援方法
 - ② 活動を変容させる具体的なもの
- ☆ いつ、どこで、誰が、どのような方法で支援するのか、具体的に**役割分担**をすることが必要

※1 「ICFによる実態整理シート」… 個別の支援計画の様式に含まれています